

推薦する取り組み	園館名
コビトマンガースのがさごそプール&マンガーステージ	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

以前はガイドの時にエサを乗せたトレーを放飼場に置いておくという与え方をされていましたが、それでは残ったエサをカラスが持っていってしまうのだそうです。

そこで、今まで与えていたエサはシロアリの巣に見立てた寝室の中に置き、その代わりに「がさごそプール」と「マンガーステージ」が新しく作られました(写真1枚目)。

がさごそプールは落ち葉が敷き詰めてあって、そこにミルワームを撒きます。すると落ち葉をかき分けてミルワームを探す様子が観察されるようになりました(写真2枚目)。

マンガーステージは竹筒やガチャガチャのケースにミルワームを入れて置いておくと、マンガースが自ら転がして中からミルワームを取り出す行動が観られます(写真3、4枚目)。また、ガチャガチャのケースを上から吊したのもあり、こちらは下から突き上げてミルワームを取り出します(写真5枚目)。竹筒やガチャガチャのケースは日によってランダムに選ばれており、毎日が単調にならないように工夫されています。

また、最近では健康管理などでケージ等に入れる必要が出てきた時のために、手からエサを与えて馴らすトレーニングもされています。



写真1枚目



写真2枚



写真3枚目



写真5枚目

写真4枚目



推薦する取り組み	園館名
コビトマングースのエンリッチメント	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

飼育担当の油家さんが少しでも時間をかけてエサを探して食べることが出来るように工夫をされています。カプセルをぶら下げて突くと中に入れてあるミルワームが出てきたり、ステージを作られカプセルや筒を転がすとそこからもミルワームが出る仕掛けをされています。それから地面の落ち葉の中にもミルワームを撒かれるのでかなり時間をかけて探して食べている様子を観ることが出来ます。

それからワンポイントガイドの時も大きな声で挨拶とコビトマングースの生態などをお客さんにも分かりやすくお話されるので毎回たくさんの方が集まりとても人気があります。



給餌方法の工夫により探索・採餌時間を長くしている。

推薦する取り組み	園館名
ムフロンのじゃらじゃらボトル	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

ムフロン達に開園時間中に運動不足を減らして健康的に暮らせるようにと始められた取り組みです。

トラロープに植木鉢やポリタンク、ブイなどがぶら下げられています(写真1、2枚目)。

ボトルの中には草食獣用のペレットが入っていて、頭突きをして揺らすと穴からペレットがこぼれ落ちる仕組みになっています(写真3、4枚目)。

最初は「閣」という個体のみが頭突きをしているという状況でしたが、今では3者3様の頭突きでペレットを取り出しており、エサの時間が長くなったことに加え、大きな音があるので来園者の方の関心を引くことにも成功しています。

また、投薬など飼育管理に便利のようにムフロンたちに手渡してエサを与えられるように訓練中で、これに関しては最初「天」という個体のみが手渡しのエサを食べにくる状況でしたが、今では3頭とも手渡して食べに来るようになっています(まだムラがあるようですが)。

ムフロン舎はコンクリートの地面なので、土の感触を感じてもらおうということで現在放飼場の一部に土を入れています(写真5枚目)。こちらは今後ももう少し土を入れる予定だとおっしゃっていたので未完成ですが、取り組みの一つとして上げさせていただきます。



写真1枚目



写真2枚目



写真3枚目



写真4枚目



写真5枚目

推薦する取り組み	園館名
ムフロンへのエンリッチメント	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

ムフロンのツウ、テン、カクがある程度の距離感をとりながらもストレスを軽減する為に飼育担当の油家さんが壁側に座りムフロン達が自分から近づき手からペレットを食べることが出来るようにトレーニングを重ねられて、最近では体に触られていても手から食べれるまでになりました。

それからとても注目されているのがポリタンクやプラの植木鉢をぶら下げ、それをツウで突くとペレットが出てくる仕掛けになっているのでムフロン達はペレットを入れてもらうとすぐに時間をかけて突いてペレットを出して食べています。これはムフロン達には非常に楽しみになっているようで油家さんが来ると待ちかねたように見えています。

それにこのムフロン達の行動を観られたお客さんの反応がとても大きいものです。驚きと感心、そして関心をも持たれています。とても素晴らしいエンリッチメントになっています。



トレーニングの様子。



吊り下げられたフィーダーを角で突き、中に入れられたペレットを食べる。

推薦する取り組み	園館名
ムフロンをより健康に	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

天王寺動物園では、3頭のムフロンが飼育されています。  
 獣舎は擬岩で高低差を作り出しはいるものの、コンクリート造の味気ないものです。

ここに、どこにでもある植木鉢やブーマーボールに餌を入れ、上から吊るしています。  
 ムフロンは角を使用し、立ち上がるような姿勢で、夢中になって採食していました。  
 野生の行動パターン、行動時間配分に近づけているようです。

ご本ヤギたちがどう思っているかはわかりませんが、心身ともに、より健全な暮らしに結びついているはずです。



左上:フィーダーにペレットを投入。1日に1回くらい  
 右上:ブーマーボールフィーダー  
 左中:植木鉢フィーダー  
 右中:それぞれの個体吊るしてある

推薦する取り組み	園館名
クロサイトミーの観える化計画	大阪市天王寺動物園

クロサイトのミーは以前パートナーのサっちゃんがサブパドックで飼育されていたこともあり、寝室への入り口のところで多くの時間を過ごしていました。それはサっちゃんが亡くなってからも続いていたのですが、その場所は来園者から見えない位置になるため「サイがない」と言われることも多々ありました。そこで、クロサイトのミーが自主的に来園者から見える位置に出られるよう、担当者の方が放飼場に工夫を凝らしておりますので、その取り組みを推薦いたします。

一つ目は来園者からちょうど正面の位置でミーが休めるように目隠しを作っています(写真1、2枚目)。これはサバナゾーンでキリンやエランド達が食べた後の枝を再利用したものです。ミーは時折この枝を角で持ち上げて遊んだり、ぼりぼりと食べたりもします。

2つ目は嗅覚に敏感なクロサイトの能力を利用して普段いかない草の生えたあたりに以前ゾウの糞を置いてみたことがあるようです。縄張りに侵入されたと思ったミーが糞を置いた辺りを探索する行動が観られたそうです。

3つ目は今までは放飼場の一箇所に青草などのエサを地面に直置きしていましたが、クロサイトは野生でもエサを探して歩き回っていることが多いだろうということで放飼場の各所にエサを少しずつ置くようにし、ミーが放飼場のあちこちでエサが食べられるようにしてあります。また、口の形や使い方から地面に置いてあるものより頭の高さのエサの方が本来食べやすいだろうということで、枝を上から吊したり、枝にリンゴなどを刺したりしており(写真3、4枚目)、寝室でも頭の高さにエサをセットするようにしているそうです(写真5枚目)。そのようなエサの与え方をすることにより放飼場で食べる量が増え、来園者の前でも水を飲む行動が観察されるようになりました。

このような取り組みで開園時間中もミーがエサを食べている様子や休んでいる様子が来園者から観られるようになりました。

また、寝室でハズバンダリートレーニングもされており、採血などが出来るようになっていきます。ターゲット棒の先はシャカシャカと音が鳴るように作られていて、視力があまり良くないクロサイトでもターゲットの位置がわかりやすくなっています。トレーニングの成果である体重測定の様子は元旦のイベントで公

2015/3/20 クロサイトのミーくんの採血  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/267/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/267/)

2014/12/18 トミーくんの体重測定のためのトレーニング～元旦を見据えて！  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/196/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/196/)

2014/10/1 トミーくんの体重測定のためのトレーニング  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/91/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/91/)

2014/10/12 トミーくんの寝室でのお食事！  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/111/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/111/)

2014/10/7 トミーくんの採血  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/97/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/97/)

2014/10/1 トミーくんの体重測定のためのトレーニング  
[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/91/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/91/)



写真1枚目



写真2枚目



写真3枚目



写真4枚目



写真5枚目

推薦する取り組み	園館名
クロサイのエンリッチメント	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

クロサイ飼育担当の油家さんが昨年4月よりあちこちにエサの工夫した置き方をされるようになってからトミーの行動範囲がとて広がっています。入園者もトミーの姿を観ることが出来るのが非常に増えました。トミー自身もあちこちで食べるにより楽しみも増えストレスも軽減していると思われます。今年元日にはハズバンドリートレーニングの効果で体重測定もしっかり出来ていました。スタッフブログでは採血が出来てる様子もUPされています。トミーの心身とも健康をとて考えられていて素晴らしい取り組みをされていると思います。



展示場内の様々な場所に餌が置かれている。



餌を探して展示場内を移動するので、来園者も観察しやすい。

推薦する取り組み	園館名
ホッキョクグマの繁殖における取り組み	大阪市天王寺動物園

昨年11月に天王寺動物園ではホッキョクグマの繁殖に成功し、モモと名付けられた仔グマが180日齢を向かえました。

ホッキョクグマのガイドや繁殖についてのパネル展示などで担当者様や組織で挑戦された取り組みを知り、様々な工夫があってこそその繁殖成功だと思いました。その取り組みを紹介させていただきたいと思ます。

一昨年隔離されていたメスのバフィンが出産しなかったため、展示再開の1月末からオスのゴーゴと同居を開始しました。同居をさせる際、バフィンが発情期に突入しているかどうかの兆候を見極めることが大切なのだそうです。発情のピーク前から2頭はプールでじゃれ合ったりしていますが、このじゃれ合う期間も大切なのではないかとおっしゃっていました(写真1枚目)。発情がピークになると、夜間も同居しています(写真2枚目)。

発情が終わりお互いへの関心がなくなる5月の中旬頃別居展示となり、その頃からバフィンの出産を想定して様々な準備をされていたようです。まずバフィンに夏のダメージを残さないよう午前中の展示とし、早い時間に収容するようにされていました。秋には脂肪を蓄えさせるため牛脂などを与え、しっかりと太らせたそうです。これは出産に向けて絶食するようになるため、どれだけ栄養を蓄えたかで妊娠の可能性が高まるのではないかとこの考えからのようです。そして外部からの音や光などを遮断し10月末に展示中止となりました。この時バフィンの寝室前にゴーゴが近づかないようブロックを置いて、オスの気配を近づけない工夫をされていました(写真3枚目)。写真のブロックで覆われている場所がバフィンの寝室への入り口がある場所で、ゴーゴはキーパー通路までしか近づけません。また、ホッキョクグマ舎には「出産準備中のためお静かに」という掲示をし、来園者にも協力を求めました。そしてバフィンは11月中旬に完全に隔離され、11月25日に出産が確認されました。バフィンは過去に育児放棄をした経験があります。バフィンの子育ての記録を残したいとスタッフブログで監視用モニターの映像などを早期に公表されました。

推薦理由

12月半ばにモニター越しにバフィンが巣材である藁を食べ始めたのが確認されたため、給餌に入られました。この時の様子はスタッフブログの「バフィンの子育て、「想定外」」(2014/12/26 [http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/205/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/205/))に詳細に書かれています。その中で「バフィンがゴーゴとの別居した時から毎日徹底的にバフィンの産室ではなく、寝室の餌投入口からバフィン〜と呼びながら餌を与えていました。これで担当者の声=餌の時間と思ってもらうのと、寝室の投入口の前に来たら餌が貰えるを覚えてもらいました。」と書かれており、5月の末から出産後の給餌を想定して準備をされていたことが伺えます。スタッフブログの「ホッキョクグマの赤ちゃんは「どっち似？」」(2015/1/12

[http://blog.zaq.ne.jp/zoo\\_tennoji5/article/219/](http://blog.zaq.ne.jp/zoo_tennoji5/article/219/))では「授乳が終わって落ち着いたらゴーゴに給餌をします。バフィンは反応して寝室の餌投入口前に行きます。その時に飼育員が餌を入れに獣舎へ入ってくるというのを覚えてもらいます。」と書かれています。ゴーゴがバフィンのエサの時間に干渉しないこと、バフィンは飼育員が入ってくるタイミングが分かること、バフィンも赤ちゃんも授乳後なので精神的に落ち着いていることなど様々な配慮をしてバフィンへ給餌していたことがわかります。その次の段階として、ゴーゴに餌を与える→バフィンが寝室に来る→飼育員が餌持ってくるという手順を守り、担当者以外でも給餌に入れるようにされたそうです。そして、給餌に入るに獣舎の電気をつけて入るようになり、赤ちゃんが近くに来てバフィンの警戒はかなり弱くなったところを見計らって産室の清掃をされました。プールに藁や木の枝を敷き詰めクッションになるようにして、赤ちゃんがケガをしないよう配慮した上で一般公開の日を迎えました(写真4枚目)。

このようにバフィンという個体を十分観察したうえで一つずつ段階を経て、現在微笑ましい親子の姿を見ることが出来ています(写真5枚目)。

バフィンは3度に渡る育児放棄の経験があり、高齢ということもあって、繁殖は無理なのではないかという方もいらっしゃいました。また、天王寺動物園のホッキョクグマ舎は戦前からある施設で、すぐそばには高速道路が走っています。しかし、出産・育児が出来る環境を整える工夫をすること、母グマの様子を注意深く観察しそのペースに合わせて給餌等のサポートしていくことで繁殖成功の可能性を高めることが出来るという事例ではないかと思います。



写真1枚目



写真2枚目



写真3枚目



写真4枚目



写真5枚目

推薦する取り組み	園館名
ホッキョクグマの繁殖	大阪市天王寺動物園

推薦理由

飼育担当の下村さんがこの数年かけて観察しながら絶妙なタイミングでゴーゴとバフィンを同居させ、そして交尾、別居を試みた結果、昨年11月のモモの誕生となりました。誕生後もモニター越しに毎日観察を重ねられて日々大きく成長してくれているのは素晴らしい評価につながると思います。



母親のバフィンと仔のモモ



2頭の仲睦まじい様子を観察できる。

推薦する取り組み	園館名
ホッキョクグマの環境	大阪市天王寺動物園

## 推薦理由

昨年推薦したホッキョクグマの取り組みですが、その後も継続した環境づくりをされた結果、繁殖に繋がりましたので今年もあらためて推薦したいと思います。発情シーズンからの観察、夏場の雌(高齢)のダメージを軽減する工夫をする。そして昨年設置した大きなコンクリートブロックを今回も設置し昨年以上の成果があり少くも雄の気配がしても雌は安心して寝室・産室にいたようです。出産後は過去の失敗を活かしてキーパーが中に入る・電気をつける・雌にエサを与えるなどのタイミングを慎重に考え実行 園内の工事や清掃などからくるストレスを減らすよう園全体で協力、来園者への理解・協力をお願いなど徹底して行いホッキョクグマの親子の子育てに成功しました。日頃のハズバンドリートレーニングも役立ちました。過去の失敗から最初はプールに水を入れずクッションになるようたくさんの枝葉をいれ親子が安心して過ごせる工夫をしました。下村氏のここ数年の取り組みは、全国のホッキョクグマ関係者から情報を集めた過去の成功例・失敗例 天王寺の個体が浜松で出産したときの様子なども参考にしたものです。それらの情報と日頃の観察が繁殖に繋がりました。その上で下村氏はここ数年の記録を残すことに力をいれています そのデータは今後、他の園館での繁殖にも活かされるでしょう それはとても重要なことだと思います。そのことも含め推薦します。



